



○庄内町ってどんなところ？

庄内町は、米どころ庄内平野の南東部から中央にかけて位置しています。霊峰月山の頂を有し、月山を源とする清流立谷沢川と日本三大急流の一つ最上川に沿う、南北に長い地形です。

気候は、比較的温暖ですが、冬期間は南部（月山側）に近づくほど積雪量も多くなり、北西部（日本海側）よりの季節風が激しく、また、春から秋にかけては、最上川の渓谷からの東南東の強風は「清川ダシ」と呼ばれ、その風力を活かした風車（風力発電）が有名です。

人口は24,677人（H17国勢調査速報値）で6,756世帯（H17国勢調査速報値）の町です。面積は、249.26k㎡。

発電用の大型風車が町のシンボリックな施設です。そのほかに、文化創造館（響ホール）、ウィンドーム立川、カートソレイユ最上川などがあります。

特産物は、良食味米、亀ノ尾（地酒）、花き（ストック・トルコギキョウ）、漬物などです。



山形県庄内町と友好町の盟約を締結します！



交流のきっかけ

交流の始まりは、平成5年6月に、歌津町教育委員会が小学生の国内交流先を探していたところ、新聞に「あなたが体験～砂金堀り～清流の中で夢を見る」という山形県立川町を紹介する記事が掲載されたのを見て、歌津町が立川町に依頼し、同年8月に立川町内で小学生の3泊4日の体験交流が行われ、これがきっかけで交流が始まりました。

その後、様々な分野で友好を深め、平成11年10月13日に歌津町町制施行40周年を記念し、友好町の盟約を締結し、今日まで、小学生の相互交流事業や漁業体験事業など様々な分野での交流を展開し、友好を深めてきました。

これからの交流

昨年7月1日に立川町は余目町と2町合併し、庄内町が誕生しました。また、昨年10月1日に歌津町と志津川町と2町合併し南三陸町となりました。

南三陸町と庄内町は、互いにこれからの交流について協議をしてきましたが、合併前に培われていた友好の絆を、新町に受け継ぎ、改めて友好町の盟約を締結し、新たな行政エリアで新しい交流展開を目指して行くことになりました。

また、どちらかの町に大規模災害が発生し、被災した場合、応急対策や復旧対策を応援する「災害時における相互応援協定」を併せて締結します。